

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

1 学校づくりの骨子

大阪府の人材育成の重点化を踏まえた「東大阪・八尾地域をはじめ、地元産業のものづくり人財の育成」を推進する為、地元企業、更には広域な企業・業界団体等との連携を強化し、ものづくり人財の孵卵器たる学校づくりを行う。

2 生徒の育成方針

「人づくり・ものづくり・夢づくり」のスローガンのもと、ものづくりの要諦である 5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）+ 2A（挨拶、安全）の徹底を礎として、基礎学力、基本技能を高め、知・徳・体（確かな学力、豊かな心、健やかな体）を調和よく育むとともに、校外の技術者&本校教員による綿密な指導等による現場で役立つスキル（技能・技術）を身に付けたものづくりスペシャリスト、および環境変化に打ち勝つ生き抜く力を身につけた競争力を有する現場のリーダーとなり得る人財を育成する。

2 中期的目標

1 中核教育活動施策目標（A）

(1) 新学習指導要領の反映、指導の刷新

新学習指導要領に基づく「主体的・対話的で深い学び」への授業改善を更に展開すると共に、カリキュラムマネジメントの検討を通じて各教科の教育内容を相互の関係で捉え、

Project Based Learning 導入に結びつけ、協働・課題設定～解決型学習を進める。また、本校の強みである職業教育のより一層の充実を図る。

学校教育自己診断「布施工科は自分の能力を高めてくれると思う」「布施工科高校の授業で学んだことは卒業後の仕事に役に立つと思う」の生徒肯定：80% +（H30：72%、82%）

授業アンケートの1回目と2回目の「改善率」に着目する。（5%Up以上）

(2) 基礎学力向上への取組み強化

全学年で実施している基礎学力調査の分析結果に基づき、基礎学力向上のための指導体制を構築するとともに、一定水準に達していない生徒に対する補習を実施する。

(3) 公開授業・校内研修の拡充

保護者及び教員を対象とした公開授業期間を年2回設定するとともに、授業力向上のための研究協議・校内研修を実施する。

(4) 生徒指導 規範意識の育成強化

5S+2Aの次なるステージとして、模範レベルの挨拶の全校展開を推進する。また、生活習慣の基本たる自己管理を重視し、遅刻指導を全校で取り組む。さらに服装基準の精緻化と指導の標準化を推進し、TP0をわきまえたモラルの高い社会人への育成を図る。

遅刻者数 年間1,000名未満を堅持する。（遅刻者数：H29 520名、H30 482名）

(5) 人権・インクルーシブ教育の推進

「障がい理由とする差別の解消の推進に関する法律」の趣旨に鑑み、インクルーシブ教育の推進体制を構築し、教職員への啓発、知識/情報共有、サポートシステムづくりを推進する。また「常態からの差異の検知」に力点を置いた予防的措置の取り組みをさらに進めるとともに、外部機関との連携強化を促進する。更に、全ての授業がユニバーサル・デザインを反映したものとなるよう改善を図る。

(6) 中退率減少、不登校改善取組み強化

学校生活に距離をおいてしまった生徒が学習に取り組む意欲を復活させられるよう、また学校における居場所を見だし自己肯定感を高められるよう、担任、副担任、学年主任、中退防止コーディネーター、支援教育コーディネーター、スクール・カウンセラー等が連携し、課題の早期発見と家庭との連携を深め、不登校の改善、中退率の減少を図る。

中退率4.0%未満を目標とする。（中退率：H29 3.45%、H30 2.79%）

2 拡張教育活動施策目標（B）

(1) 生徒会活動の推進

生徒会執行部が中心となった活動の活性化を図り、体育祭や文化祭など生徒全員が一致団結し主体的・自律的な企画～運営が更に高まるよう、指導・サポートを進める。

(2) 部活動・同好会活動の推進

部活動、同好会の加入率を向上させ、生徒の自主性と個性を伸ばし切磋琢磨する機会を通じて心身の鍛錬をはかるとともに、人間関係の大切さを知り社会人へのステップアップとする。また高い技術の向上を図りながら、ものづくりへの興味・関心を高めさせ、難易度の高い資格・検定へのチャレンジに繋げる。（部活動加入率：H29 53.2%、H30 53.6%）

部活動・同好会活動加入率50%以上を維持することを目標とする。

(3) 交通安全教育の推進

約9割の生徒が自転車通学である現状を踏まえ、地元警察署の協力のもと交通安全教育を推進し、重大自転車事故ゼロをめざす。また、運転免許を取得した生徒には、学校への

報告の遵守と共に地元教習所と連携した交通安全教育を行い、交通社会における運転者の資質と責任を果たせるようにする。

3 アウトプット対象施策目標（C）

(1) キャリア教育の拡充

地元企業・関連企業の絶大なるご協力のもと、2年生全員に対するインターンシップ・プログラムを実施し、職業意識を高め自身のキャリアについて深く学ぶ。（1単位認定）

（インターンシップ参加率：H29 100%、H30 100%...リカバリープログラム参加を含む）

企業経営者・幹部による講演会や、企業の現場での就業体験など、企業や就業について学ぶ。

インターンシップ参加率 実質100%を堅持する。

(2) 就職希望者への進路指導の拡充

進路において就職を希望する生徒はおよそ8割であるが、まずはチャレンジ意欲を尊重しながら就職一次合格率において概ね80%をめざすと共に、就職内定率100%を堅持する。

（就職一次合格率：H29 91.0%、H30 90.2%）（就職内定率：H29 100%、H30 100%） 就職率 100%を堅持する。

(3) 進学希望者への進路指導の拡充

数学、物理、英語の単位数が普通科に比べて少ないため、進学希望者に対して補習をする。特に、工科校長枠推薦の対象となる大学への学校推薦については、外部実力判定試験を受験するとともに、校内の特別補習の参加を必須とすることで自らの学力レベルを把握し大学での勉学に困らない学力を身に付けていく意欲を喚起する。またオープンキャンパスへの参加を促し進学への意識醸成を図る。（大学進学者：H29 5名、H30 3名）

(4) 資格取得・検定合格の指導強化

マイスター等外部エキスパートによる生徒（及び教員）の技能向上を通じて、資格取得の拡大を図る取組みを強化する。（資格取得数 H29 800名、H30 498名）

なお、配管技能検定取得者数の工業高校日本一および技能五輪全国大会「配管」競技への連続出場をめざす。（H29 2級 7名・3級 24名、H30 2級 6名・3級 29名）

また、平成29年度学校経営推進費プロジェクトにより、部活動・同好会活動に参加していない生徒が放課後に資格・検定の取得・合格に勤しみ、学校生活を中心に組み立てた日常生活が生徒の自己実現につながるよう全校体制で取り組む。

(5) 企業/業界団体等との連携強化

工科高校重点化の取組みとして、ものづくり企業が集積している東大阪・八尾地域をはじめ一層の企業連携を図り、また広域な企業や業界団体から本校に来ていただく出前授業など、キャリア教育・職業教育の充実を図る。

(6) 卒業後の進路調査と対策強化

卒業3年後の離職率を把握し、その結果を踏まえてキャリア教育・職業教育にフィードバックし、1年次より早期に外部機関と連携してキャリア教育を積極的に行い、離職率の低減を図る。なお、卒業後すぐに就職した企業に3年以上勤務の後退職して間をおかずに同業他社へ転職しているケースはキャリアプランに沿ったものとして肯定的にとらえる。

4 インプット対象施策目標（D）

<p>(1) 中学校訪問等の拡大 入試制度の後期一本化に伴う影響に対し、中学校・塾訪問、中学教員来校見学会等を通して工科高校の魅力と本校の特徴を理解してもらい、本校を受験する中学生の増加を図る。 入試倍率を1.0倍以上とする。(入試倍率：平成30年度入試0.91倍、平成31年度入試0.88倍)</p> <p>(2) 小中学校への出前授業等の拡大 ものづくり教育や本校の利点を知ってもらうため、中学校への出前授業や保護者説明会等への参加を積極的に推進する。さらに中長期的な視点で小学校への出前授業等を行い、ポテンシャルの拡大を図る。</p> <p>(3) 学校説明会、オープンスクール拡大 オープンスクール、本校で開催の学校説明会・見学会の拡充を図る。(7月～2月に中学校の事情にあわせた戦略的拡大を図る)</p> <p>5 広報・渉外活動施策目標(E)</p> <p>(1) 情報発信/情報提供の拡充 報道機関等に対してタイムリーかつ効果的な情報が提供できるように、緊急時も含めた校内での情報共有化と体制づくりを行う。(報道提供：H29 22件、H30 20件) なお、ブランディング施策を推進し、工業・工科高校のイメージアップを図る。</p> <p>(2) 学校ウェブサイトの拡充 中学生、保護者、府民、企業等本校に関係する全ての方々に必要かつ有用な情報提供を強化する。なお鮮度が高く生き生きとした教育活動の状況を積極的に発信する。</p> <p>6 リスクマネジメント施策目標(F)</p> <p>(1) 安全で安心な学びの場づくりの推進 生徒の安全・安心が脅かされる状況を把握し、生徒から相談しやすい仕組み、緊急度・重要度に応じた外部機関との連携等により、生命・心身の健康を守る取組を推進する。 学校保健委員会と職員安全衛生委員会を充実させ、学校三師・地域・保護者とともに「安心・安全な学校づくり」を推進する。</p> <p>(2) 働き方改革の推進 「ワークライフバランスを考慮した勤務」を標榜し、取組を推進する。</p> <p>(3) 能動的危機管理の強化 多重の安全管理、緊急対応等を踏まえた危機管理の徹底を図る。なお、ハインリッヒの法則に基づくヒヤリ・ハットの把握・記録・原因分析による未然防止を推進する。 大規模震災発生時における地域連携による対応体制確立と訓練等を強化する。</p>

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成2年1月実施分]	学校運営協議会からの意見																																																																																																																																		
<p>【学校生活】「学校が楽しい」</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="3">肯定的評価</th> <th colspan="3">否定的評価</th> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>R1</td> <td>±</td> <td>H30</td> <td>R1</td> <td>±</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>63%</td> <td>58%</td> <td>05%Down</td> <td>27%</td> <td>34%</td> <td>7%Up</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>71%</td> <td>67%</td> <td>04%Down</td> <td>26%</td> <td>27%</td> <td>1%Up</td> </tr> </table> <p>昨年度に比べて、肯定について生徒保護者ともに若干減少し、否定に関しては生徒保護者ともに増加している。生徒が楽しく学べる環境、興味ある実習教材を構築し、楽しい学校づくりに向けた取り組みが必要である。</p> <p>【学習指導】「わかる授業」</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="3">肯定的評価</th> <th colspan="3">否定的評価</th> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>R1</td> <td>±</td> <td>H30</td> <td>R1</td> <td>±</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>58%</td> <td>57%</td> <td>01%Down</td> <td>35%</td> <td>36%</td> <td>01%Up</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>75%</td> <td>73%</td> <td>02%Down</td> <td>25%</td> <td>12%</td> <td>13%Down</td> </tr> </table> <p>昨年度に比べて、若干ではあるが、生徒の肯定が減少し否定が増加している。しかし、教員の否定が減少していることから、生徒教員との認識には依然かい離がある。生徒に寄り添った一層わかりやすい授業づくりを推進する必要がある。</p> <p>【生徒指導】「厳しい」、「納得できる」</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="3">肯定的評価</th> <th colspan="3">否定的評価</th> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>R1</td> <td>±</td> <td>H30</td> <td>R1</td> <td>±</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>72%</td> <td>71%</td> <td>01%Down</td> <td>22%</td> <td>19%</td> <td>03%Down</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>74%</td> <td>69%</td> <td>05%Down</td> <td>21%</td> <td>22%</td> <td>01%Up</td> </tr> </table> <p>昨年度に比べて、生徒の肯定否定ともに減少している。厳しいというイメージが若干弱くなったようである。生徒・保護者の期待する厳しさや優しさに基づいた指導について検討する必要がある。</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="3">肯定的評価</th> <th colspan="3">否定的評価</th> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>R1</td> <td>±</td> <td>H30</td> <td>R1</td> <td>±</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>62%</td> <td>57%</td> <td>05%Down</td> <td>26%</td> <td>33%</td> <td>07%Up</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>73%</td> <td>69%</td> <td>04%Down</td> <td>24%</td> <td>18%</td> <td>06%Down</td> </tr> </table> <p>「生徒指導への納得」について生徒・保護者の肯定が共に減少し、生徒の否定が増加、保護者の否定が減少している。保護者が求める指導方法の模索と共通理解、連絡や対話を更に密にする必要がある。</p> <p>【キャリア教育】「インターンシップ等の取組み」</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="3">肯定的評価</th> <th colspan="3">否定的評価</th> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>R1</td> <td>±</td> <td>H30</td> <td>R1</td> <td>±</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>75%</td> <td>68%</td> <td>07%Down</td> <td>22%</td> <td>17%</td> <td>05%Down</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>81%</td> <td>78%</td> <td>03%Down</td> <td>17%</td> <td>9%</td> <td>08%Down</td> </tr> </table> <p>今年度「インターンシップ」の取組みに関しては、生徒保護者ともに肯定否定が減少している。引き続き、工科高校重点化の取組みとして取り組む必要がある。</p>	肯定的評価			否定的評価			H30	R1	±	H30	R1	±	生徒	63%	58%	05%Down	27%	34%	7%Up	保護者	71%	67%	04%Down	26%	27%	1%Up	肯定的評価			否定的評価			H30	R1	±	H30	R1	±	生徒	58%	57%	01%Down	35%	36%	01%Up	教職員	75%	73%	02%Down	25%	12%	13%Down	肯定的評価			否定的評価			H30	R1	±	H30	R1	±	生徒	72%	71%	01%Down	22%	19%	03%Down	保護者	74%	69%	05%Down	21%	22%	01%Up	肯定的評価			否定的評価			H30	R1	±	H30	R1	±	生徒	62%	57%	05%Down	26%	33%	07%Up	保護者	73%	69%	04%Down	24%	18%	06%Down	肯定的評価			否定的評価			H30	R1	±	H30	R1	±	生徒	75%	68%	07%Down	22%	17%	05%Down	保護者	81%	78%	03%Down	17%	9%	08%Down	<p>第1回(令和元年7月4日)</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻数等の資料の作り方について、グラフ等ビジュアルで見える形で提示してほしい。 体育祭・文化祭についてもビジュアルで見せてほしい。 良い学校で先生も頑張っている、進路についても良いが、なぜ志願者が少ないのか、新しい機械・設備が必要ではないか。 働き方改革について、早く帰るだけでは無理である。中身を変化させなければいけない。 遅刻数について、医師の診断書までもらって遅刻数の数に入れているのか。 インプットについて、私学のほうが見栄えがよい、例えば横文字にするとかイメージアップをしてはどうか。3Kの会社でも綺麗にしたりしてイメージアップしている。 離職率について、あとのフォローをすればイメージアップになる。 若手育成について、企業でも大事に育成している。時間的に余裕がなければいけない。 中退防止について、理由の分析を丁寧にするとう減少すると思います。 学校からの連絡をできれば学校WEBサイトにUPしてほしい。 学校登校時に地震があった場合には特別に時間を設け、保護者に向けて安否確認して良いことにすると保護者も安心すると思う。 <p>第2回(令和元年12月5日)</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻数は、他校に比べ少なく頑張っている状況が伺える。 求人企業数は、東大阪市が半分程度あり、大卒より高卒の採用を考えている企業が多い。八尾市の3000社のもので、工業高校生を採用したいと考えている。採用だけでなく、企業は高校教員とも密に連携を図りたいと思っているので、是非交流も考えてもらいたい。 社会に出て活躍できる生徒の輩出を、今後も進めてもらいたい。 一人複数受験の制度について、高等学校がきめ細かく指導していることや、指定校推薦制度を活用し、就職斡旋していることから一人1社制をそのまま継続してもらえば良いのではないかと。 進学指導については、進学希望者が少なく、指定校推薦制度を利用して大学進学する者が数名程度。大学入学後必要な一般教科の指導を補習継続願いたい。 中退者を減らすよう今後も努力願いたい。 ハラスメントについては、校長が教員を指導願いたい。 産業界は人手不足である。今後IT化が進むと予想されるので、ITマスターを活用するなど、IT関係に力点を置いた指導をお願いしたい。 生徒数減少期ゆえ、女子生徒の確保も含め、PR活動に努めてもらいたい。 <p>第3回(令和2年2月18日)</p> <ul style="list-style-type: none"> 補導案件は例年とほぼ同数だが、内容が変遷していることに対応願いたい。 インターンシップに参加している生徒は、5・6年前に比べれば、かなりレベルアップしている。 離職率が高いが、その理由が判別できない。一身上の都合でしか集計できないのではな
肯定的評価			否定的評価																																																																																																																																
H30	R1	±	H30	R1	±																																																																																																																														
生徒	63%	58%	05%Down	27%	34%	7%Up																																																																																																																													
保護者	71%	67%	04%Down	26%	27%	1%Up																																																																																																																													
肯定的評価			否定的評価																																																																																																																																
H30	R1	±	H30	R1	±																																																																																																																														
生徒	58%	57%	01%Down	35%	36%	01%Up																																																																																																																													
教職員	75%	73%	02%Down	25%	12%	13%Down																																																																																																																													
肯定的評価			否定的評価																																																																																																																																
H30	R1	±	H30	R1	±																																																																																																																														
生徒	72%	71%	01%Down	22%	19%	03%Down																																																																																																																													
保護者	74%	69%	05%Down	21%	22%	01%Up																																																																																																																													
肯定的評価			否定的評価																																																																																																																																
H30	R1	±	H30	R1	±																																																																																																																														
生徒	62%	57%	05%Down	26%	33%	07%Up																																																																																																																													
保護者	73%	69%	04%Down	24%	18%	06%Down																																																																																																																													
肯定的評価			否定的評価																																																																																																																																
H30	R1	±	H30	R1	±																																																																																																																														
生徒	75%	68%	07%Down	22%	17%	05%Down																																																																																																																													
保護者	81%	78%	03%Down	17%	9%	08%Down																																																																																																																													

<p>【進路指導】「職業観・勤労観の育成」</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="3">肯定的評価</th> <th colspan="3">否定的評価</th> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>R01</td> <td>±</td> <td>H30</td> <td>R01</td> <td>±</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>76%</td> <td>74%</td> <td>02%Down</td> <td>21%</td> <td>17%</td> <td>04%Down</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>82%</td> <td>77%</td> <td>05%Down</td> <td>16%</td> <td>10%</td> <td>06%Down</td> </tr> </table> <p>昨年度に比べて、肯定否定とも若干減少。引き続き、職業観・勤労観の育成についての充実を図る必要がある。</p> <p>【人権教育】「学ぶ機会が多い」</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="3">肯定的評価</th> <th colspan="3">否定的評価</th> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>R01</td> <td>±</td> <td>H30</td> <td>R01</td> <td>±</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>72%</td> <td>67%</td> <td>05%Down</td> <td>23%</td> <td>24%</td> <td>01%Up</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>82%</td> <td>61%</td> <td>21%Down</td> <td>18%</td> <td>28%</td> <td>10%Up</td> </tr> </table> <p>昨年度に比べて、教員の肯定が大幅に減少し否定が大幅に増加している。人権意識の醸成のため、学ぶ機会をもっと多くとる必要がある。</p> <p>【いじめ】「いじめ対応」</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="3">肯定的評価</th> <th colspan="3">否定的評価</th> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>R01</td> <td>±</td> <td>H30</td> <td>R01</td> <td>±</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>63%</td> <td>52%</td> <td>11%Down</td> <td>34%</td> <td>18%</td> <td>16%Down</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>84%</td> <td>82%</td> <td>02%Down</td> <td>14%</td> <td>12%</td> <td>02%Down</td> </tr> </table> <p>昨年度に比べて生徒・教員とも否定が増加している。いじめに関しては、防止対策が重要である。本校の方針について生徒や保護者に共通理解してもらおうとともに、さらなる信頼と安心感を持ってもらう必要がある。</p>	肯定的評価			否定的評価			H30	R01	±	H30	R01	±	生徒	76%	74%	02%Down	21%	17%	04%Down	保護者	82%	77%	05%Down	16%	10%	06%Down	肯定的評価			否定的評価			H30	R01	±	H30	R01	±	生徒	72%	67%	05%Down	23%	24%	01%Up	教職員	82%	61%	21%Down	18%	28%	10%Up	肯定的評価			否定的評価			H30	R01	±	H30	R01	±	生徒	63%	52%	11%Down	34%	18%	16%Down	教職員	84%	82%	02%Down	14%	12%	02%Down	<p>く、突っ込んだ答えを聞きださないことには、解決策が見い出せない。質問項目の検討をすべきではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年の1次内定率が良かったが、新型コロナウイルスの影響で中国の経済状況が極端に悪化しているため、次年度以降就職戦線にも影響が出ると思われる。R2年度の就職は厳しくなるだろう。早いうちからケアをされたし。 ・機械系・電気系の生徒は、小売業を中心に()要因が増加し、危機感をもって当たってもらいたい。そのような状況下でも、就職率を上げることができれば、対外的にPRできるのではないかと。 ・学校教育自己診断の教職員のサンプル数が少なく、回収率を上げるべきではないか。提出した方は意識の高い教員である。 ・生徒は本音で書いていると思われるが、投げやりに記入しているものもあり、信憑性が疑われる。 ・保護者の集計も、項目の関連性がなかったり、生徒の意見との乖離があり、鵜呑みにはできない。 ・集計が大変だと思うが、スマホやタブレットで集計するようにすれば、省力化できるのではないかと。 ・教職員のモチベーションを下げることなく、能動的な危機管理の強化の対策をしてもらいたい。アウトプットはますます厳しくなっていく。インプットについても集客に向け頑張ってもらいたい。 ・令和2年度学校経営計画については、承認。
肯定的評価			否定的評価																																																																												
H30	R01	±	H30	R01	±																																																																										
生徒	76%	74%	02%Down	21%	17%	04%Down																																																																									
保護者	82%	77%	05%Down	16%	10%	06%Down																																																																									
肯定的評価			否定的評価																																																																												
H30	R01	±	H30	R01	±																																																																										
生徒	72%	67%	05%Down	23%	24%	01%Up																																																																									
教職員	82%	61%	21%Down	18%	28%	10%Up																																																																									
肯定的評価			否定的評価																																																																												
H30	R01	±	H30	R01	±																																																																										
生徒	63%	52%	11%Down	34%	18%	16%Down																																																																									
教職員	84%	82%	02%Down	14%	12%	02%Down																																																																									

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 中核教育活動施策目標(A)	<p>(1) 新学習指導要領の反映、指導の刷新</p> <p>(2) 基礎学力向上への取組み強化</p> <p>(3) 公開授業・校内研修の拡充</p> <p>(4) 生徒指導 規範意識の育成強化</p> <p>(5) 人権・インクルーシブ教育の推進</p> <p>(6) 中退率減少、不登校改善取組み強化</p>	<p>(1) 新学習指導要領に基づく「主体的・対話的で深い学び」について工業高校時代から培われてきたスタイルを活用して、全ての授業において適用を図る。また学校教育目標(どのような生徒を育成するか等)を教科横断的・教員協働で進めていくシステム作りを行いカリキュラムマネジメント確立に繋げるよう検討する。さらに Project Based Learning の実施に向けスタンダードの認識理解そして本校での適用におけるカスタマイズを進める。加えて、職業人としてのスキル、勤労観、倫理観等の醸成を全ての教科指導、学校活動を通じて行う。</p> <p>(2) 全学年に導入した基礎学力調査によって、基礎学力の年度別変化と経年変化を把握・分析し、生徒の実態に合った学力向上のための指導を行う。 1年生で義務教育段階の「学び直し」を行う。補習が必要な生徒に対しては、教員が分担して放課後に補習を行う。 2年生では就職筆記試験対策として一般常識学習会を早朝等に行う。</p> <p>(3) 教員、保護者、中学生を対象とした公開授業期間を実施しアンケート結果から改善を図る。授業アンケートを踏まえて授業力、指導力向上のための校内職員研修を実施する。また、Project Based Learning 導入に向けた Core Team Meeting を実施し、大阪府教育庁と協働したカリキュラムマネジメントを検討する。</p> <p>(4) 「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」を有する社会人への育成へ、時間厳守、頭髪や服装を整えるなど規範意識の高揚を図ると共に、「朝のおはよう隊」を初めレベルアップした挨拶の全校展開を図る。特に時間厳守=社会的信用と昇華させる意識啓発を継続強化する。更に5S+2Aにおける清掃に着目した指導を行う。これらを推進すべく教員間の連携を強化する。</p> <p>(5) 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律に基づき、人権教育、教育相談、担当首席、支援コーディネーター、中退防止コーディネーターの専門チームを中核とし全校体制でインクルーシブ教育を推進する。教員間での連携を密にし、いじめに対する迅速な対応を徹底すると共に予防に力点を置く。</p>	<p>(1) 学校教育自己診断アンケート ・「布施工科は自分の能力を高めてくれると思う」「布施工科高校の授業で学んだことは卒業後の仕事に役に立つと思う」の生徒肯定回答:80%(H30:72%、82%) ・「授業は良くわかる」「先生は教え方に様々な工夫をしている」の生徒肯定回答:60%(H30:58%、65%)</p> <p>(2) 基礎学力調査の全学年実施(H30:全学年) ・1年生対象の「学び直し」補習年間20時間の実施(H30:実施) ・就職等筆記試験対策学習の年間3期間実施</p> <p>(3) 公開授業期間の1学期、2学期各1回の実施(H30:2回) ・授業力向上研修の年6回の実施(H30:6回) ・職員研修の実施(H30:2回) ・Project Based Learning の Core Team Meeting 年6回の実施</p> <p>(4) 遅刻者数1000未満堅持(H30:482名) ・学校教育自己診断アンケート「本校の生活指導は厳しい」「本校の生活指導は納得できる」生徒肯定回答:70%(H30:82%、62%) ・外部(来校者)からの評価「布施工科の生徒は挨拶が良い」「校内の掃除が行き届いている」(10件/年間)</p> <p>(5) 悩み困っている生徒への相談~サポート及び全校生徒に対し ・スクール・カウンセラーによるカウンセリング:配当分+50% ・スクールソーシャルワーカーによるサポート:10H/年間 ・ケアが必要な生徒に対する、支援実施 ・生徒対象人権研修:年2回実施</p>	<p>(1) 学校教育自己診断アンケート ・「布施工科は自分の能力を高めてくれると思う」「布施工科高校の授業で学んだことは卒業後の仕事に役に立つと思う」の生徒肯定回答:66%、75%() ・「授業は良くわかる」「先生は教え方に様々な工夫をしている」の生徒肯定回答:57%、62%()</p> <p>(2) 教育産業による基礎学力診断テストを4回実施した。その結果を基に学び直しを展開し、実情に則した学力向上に努めた。() ・1年生では教育産業による演習教材を利用し、年間15時間「学び直し(基礎学力向上)」の指導を行った。() ・2・3年生において就職筆記試験等対策として朝学習を3期間、計30回行った。()</p> <p>(3) 公開授業(校内対象)の実施(H30:2回)() ・授業力向上研修の年6回実施() ・職員研修を2回実施() ・PBLの導入を見据えた次世代検討委員会よりPBL関係研修への参加、企業の新入社員教育の見学を実施し情報の取集を進めた。()</p> <p>(4) 遅刻数は523名() ・学校教育自己診断アンケート「本校の生活指導は厳しい」「本校の生活指導は納得できる」生徒肯定回答:71%、57%() ・外部(来校者)からの評価外部(来校者)からの評価「布施工科の生徒は誰もが挨拶してくれ、気持ちが良い」「校内掃除が行き届いている」(12件/年間)()</p> <p>(5) ・スクール・カウンセラーによるカウンセリング15回() ・スクールソーシャルワーカーの来校は叶わなかったが、時間割内に毎週1時間の支援教育会議を設定し、校内の情報共有を円滑にした。迅速で的確な対応をとり、組織としての活動をより強固なものとした。</p>

府立布施工科高等学校

		<p>学校いじめ防止基本方針、いじめ対応マニュアルを基軸に、支援を必要とする生徒に対しては、保護者、外部関連機関との連携を推進するとともに、校内での支援を推進する。</p> <p>サイバー空間(インターネットの SNS 等)内でのコミュニケーション問題からいじめに至るリスクについて生徒に繰り返し指導すると共に、相談～対応プロセスを確立する。</p> <p>(6) 合格発表後、新1年担任団と運営委員会メンバーで合格者の全中学校を訪問する。課題を抱える生徒については、必要に応じて出身中学校との情報交換を行う。</p> <p>ガイダンス教科である「キャリア設計」の授業で就職を見据えた適正な系選択ができるようサポートする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任・学年主任・中退防止コーディネーターの連携のもと、中途退学に至らないための指導を更に充実する。 ・転退学生の実態把握、原因分析のうえ改善策の策定・推進を図る ・成績管理、生徒指導他における「本校でのやり直し機会」の尊重を強化する ・部活動/資格取得指導等、放課後の充実による自己効力感の向上を推進する ・長期欠席生徒の状況・理由の把握と保護者、外部資源等との連携を強化する 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権重視姿勢の校内浸透 ・教職員対象人権研修：2回以上 <p>(6) 合格者全員の中学校訪問 (H30:48 前年度比+23校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中退率：4%未満(H30:2.79%) 	<p>()</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒人権研修2回実施() ・校内の支援体制に沿った運営を実施() ・職員研修2回実施。() <p>(6)成績連絡会議を実施。</p> <p>単位修得に向け生徒の学力向上のため1、2学年において各学期末考査に向けて、生徒の学習面での取組み改善を図るため、教科担当者間で学習効果のある指導例を共有することで、生徒の中退防止に繋がるよう情報を共有し授業改善に繋げた。()</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月に入ってから、課題を抱える生徒の中学校(21校)と情報交換を行い、また子ども家庭センターなどの地域の諸機関とも連携を図った。(1件)() ・中退率は3.2%となった。()
<p>2 拡張教育活動施策目標(B)</p>	<p>(1) 生徒会活動の推進 (2) 部活動・同好会活動の推進 (3) 交通安全教育の推進</p>	<p>(1) 生徒会執行部が中心となった体育祭、文化祭、ボランティア活動等自律的な企画～実行を進める。また、学校説明会を生徒が主体的に行い本校の良さをアピールする。</p> <p>(2) 部活動顧問、生徒会他が布施工科ウェブサイトのブログにて部活動、教育活動等の生き生きとした情報を積極発信する。さらに、出前授業、学校説明会等で積極的に部活動のPRを行う。生徒会・1年担任団・部活動顧問が中心となり、クラブ別オリエンテーションとクラブトライアルウィークを行い、部活動への参加を積極的に進めるとともに、部活動加入率を向上させ、活性化を図る。</p> <p>(3) 生活指導部イニシアティブにより全教職員が地元警察との連携も含め、生徒の自転車通学に関する安全教育を推進する。また地元教習所と連携し、やむを得ず免許を取得した生徒への交通安全教育を行い、交通社会における運転者の資質と責任を果たせるようにする</p>	<p>(1) 生徒会のイニシアティブによる体育祭、文化祭等の企画運営 (H30:体育祭、文化祭における生徒と教員一体となったプログラムが好評。また文化祭の企画数が増えると共に来校者からの高評価。ペットボトルキャップ回収 ポリオワクチン寄贈)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会への参画回数5回以上 <p>(2) 部活動加入率 50%+ (H30:53.6%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実業大会での優勝部活動増 ・全国/近畿レベルへの出場 ・部活動/同好会活動の布施工科ウェブサイトでのライブ配信 <p>(3) 交通安全教育講習会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元警察署による講習2回(H30:2回) ・地元教習所による交通安全教育1回(H30:1回) ・始/終業式等での啓発指導6回 ・教員による登下校指導25日/年(H30:25日) 	<p>(1)体育祭、文化祭、ペットボトルキャップ収集によるポリオワクチン寄贈等において、生徒会執行部によるイニシアティブによって企画から実行まで円滑に進めることができた()</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会では、生徒会執行部生徒が主体的に司会・見学の誘導補助等を行い、本校PRを計5回行った。() <p>(2)部活動加入率 54.1%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実業大会での優勝部活動減少() ・ロボット研究部や機械技術同好会において近畿大会や全国大会の場で良好な結果を残した。() ・部活動・生徒会からの情報発信が定着し、常に新しい学校情報がウェブサイトで見覧できるようになっている() <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元警察署による交通安全教育講習を2回実施(5月、11月)()。 ・学期毎の始業式・終業式においても計6回、交通安全への啓蒙を行った。() ・免許を取得した生徒を対象に地元教習所による交通安全教育(実技)を1回実施し、運転者の責任・安全意識を高めた() ・教員による周辺の交差点付近での登下校時見守り指導等を年度内25日行った。()
<p>3 アウトプット対象施策目標(C)</p>	<p>(1) キャリア教育の拡充 (2) 就職希望者への進路指導の拡充 (3) 進学希望者への進路指導の拡充 (4) 資格取得・検定合格の指導強化 (5) 企業/業界団体等との連携強化 (6) 卒業後の進路調査と対策強化</p>	<p>(1) 就職希望者原則「インターンシップ」への参加。校内体制の確立と生徒の職業観・勤労観の育成を図る。</p> <p>(2) 進路指導部と3年担任団の連携を密にし、就職希望者に対する指導や就職試験等の徹底を図り、就職一次合格者を概ね80%をめざし、就職内定率100%を堅持する。</p> <p>(3) 年度当初に進路指導部と担任団が中心となり、進学希望者の補習体制を確立して指導を行う。なお、工業系大学の推薦者は、外部模試と工科高校合同講習会等への参加を原則とする。</p>	<p>(1) インターンシップ参加率:100% (H30:100%...リカバリー含む)</p> <p>(2) 就職一次合格率:80% (H30:90.2%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終就職内定率:100%(H30:100%) <p>(3) 補習体制の確立と報告の徹底 (H30:実施)</p>	<p>(1)インターンシップ参加率:100%であったが、当日の欠席等が数件発生し、単位認定対象は95.4%となった。リカバリープログラムの参加者は2名であった。また1年生対象に、インターンシップへ参加した2年生の話を聞く機会を設け、次年度へ繋げた。()</p> <p>(2)2年生より朝学習を開始し知識の定着と勉強の習慣を身につけた(参加者58名)。また、就職試験前の模擬面接指導等を全教員が担当し、2回実施することで生徒の意識向上・面接スキルアップが図られ結果に繋がった。その結果就職一次合格率93.2%()</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終就職率100%() <p>(3)週1回の学習会を実施し、小論文対策を外部委託しながら、学習意欲を向上させた。進学率:7%(4年生大学:2%・専門学校等:5%)()</p>

府立布施工科高等学校

		<p>(4) 3つの系のイニシアティブによる資格取得の取り組みを推進し、取得/合格拡大を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 配管技能検定2級・3級の取得者数については工業高校日本一をめざす。 技能五輪全国大会「配管」競技については今年度も出場をめざす。 上位資格・検定へのチャレンジを促進する。 Qualification Acquisition Team(資格取得推進チーム)により全校体制で取り組む。 <p>(5) 企業見学・インターンシップ等において、地元企業や経済団体と連携し、求人の拡大を図る。</p> <p>PTAものづくりフィールドワークを実施し、保護者にも地元企業について理解を深める機会を設け、家庭と学校の両方で生徒のキャリア設計をサポートする。</p> <p>(6) 進路指導部が中心となり、全教員により企業訪問や開拓を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路調査として、就職者は離職調査、進学者は卒業後3年を対象とした状況調査を実施する。また結果をもとにキャリア教育に反映する。 	<p>(4) 資格取得者数の1割増 (H30:498名)</p> <ul style="list-style-type: none"> 配管技能検定2級3級の取得者数：前年並(H30:2級6名・3級29名合格) 技能五輪全国大会「配管」競技への出場(H30:1名) ジュニアマイスター取得者：10名以上(H30:14名) 学校教育自己診断「布施工科高校は自分の能力を高めてくれると思う」肯定率70%+(H30:72%) <p>(5) 連携した企業・団体の件数 前年並(H30:111)</p> <ul style="list-style-type: none"> PTAものづくりフィールドワークへの参加保護者数前年比1割増(H30:見学先企業数6社、参加保護者19名) <p>(6) 企業訪問や開拓件数：前年並み(H30:215社)</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業後3年後離職率：40%未満(H30:全国工業高等学校長協会離職状況調査:33.6%) 	<p>(4) 資格/検定合格者:482名()</p> <ul style="list-style-type: none"> 上位資格へ挑戦する生徒が増加。第1種電気工事合格者:3名 技能検定2級配管合格者:4名 技能五輪全国大会(配管)に2名出場延べ、7年連続13人出場。() ジュニアマイスター取得者:20名 学校教育自己診断「布施工科高校は自分の能力を高めてくれると思う」生徒肯定回答:66%() <p>(5) 企業連携した企業・団体数:120社。インターンシップ協力企業・団体数:81社()</p> <ul style="list-style-type: none"> PTAフィールドワーク:6企業、17名() 各種団体による出前授業または企業見学・現場見学会の実施:20回() <p>(6) 企業訪問は全職員で実施:217社()</p> <ul style="list-style-type: none"> 離職率:42.9%() 離職率が全国平均より高くなった。離職理由上位は、一身上の都合(32.9%)転職(28.6%)、仕事の適性(17.1%)であった。
4 イン プ ット 対 象 施 策 目 標 (D)	<p>(1) 中学校訪問等の拡大</p> <p>(2) 小中学校への出前授業等の拡大</p> <p>(3) 学校説明会、オープンスクール拡大</p>	<p>(1) 全教員で本校通学可能エリアの公立中学校を訪問し、工業・工科高校の魅力、本校の特長等を訴求すると共に中学校状況の情報収集を行い、志願者増に繋げる。</p> <p>中学校の教員対象に工業・工科高校の特長を知ってもらい進路指導に役立ててもらうための見学会を実施する。</p> <p>(2) 本校通学可能エリアの中学校に対し出前授業や学校説明会を積極的に行う。</p> <p>(3) 本校での学校説明会・オープンスクール、実習体験等を実施し、中学生・その保護者・中学校教員に工業・工科高校の魅力、卒業後進路の優位性等を訴求し、志願者増に繋げる。</p>	<p>(1) 中学校訪問の強化:90校 (H30:延べ94校)</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学校教員対象説明会教員対象1回、中学校長対象1回以上(H30:各1回) <p>(2) 出前授業及び訪問しての学校説明会数10%増(H30:5回、21回)</p> <p>(3) 本校での学校説明会・実習体験見学会、部活動体験プログラム来場者数400名(H30:400名)</p>	<p>(1) 中学校訪問:88校()</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学校教員対象説明会教員対象1回、中学校長対象1回実施() <p>(2) 中学校出前授業(9回)</p> <p>中学校へ出向いての学校説明(18回)、計27回実施した()</p> <p>(3) 学校説明会・実習体験・見学会を実施。来場者数は:436名()</p>
5 広 報 ・ 渉 外 活 動 施 策 目 標 (E)	<p>(1) 情報発信/情報提供の拡充</p> <p>(2) 学校ウェブサイトの拡充</p>	<p>(1) 報道機関への情報提供を積極的に行う。</p> <p>ブランディングを推進し、生き生きとした生徒の授業・実習の様子を表現したポスターなどイメージアップ施策を積極的に行う。</p> <p>官・民他との連携により工業(工科)高等学校の魅力化の推進、さらには職業教育の重要性・キャリア発達について情報提供し、中長期的なものづくり人材の裾野拡大を図る。</p> <p>(2) 学校ウェブサイトで、中学生、保護者、府民、企業等本校に関係する全ての方々に必要な有用な情報提供を強化する。またブログ化による極めて鮮度が高く生き生きとした教育活動の状況を積極的に発信する。</p> <p>また在校生保護者、中学生等の閲覧性を高めるためのスマートフォン対応を図る。</p> <p>(3) 平成29年度学校経営推進費プロジェクトの成果発表を対外発信し、学校ブランドバリューの向上を図る。</p>	<p>(1) 体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 報道提供20件 全国紙、地方紙、業界紙CATV等での掲載/放映 大阪府ウェブサイトでの掲載 <p>・地域コミュニティサイトを活用した情報発信</p> <p>・ポスター、パンフレット、リーフレット、説明プレゼンテーションスライドの効果性の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> QRコード等でのプロモーション <p>(2) 学校ウェブサイトの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ウェブサイトのUpdate20回(H30:28回) Blog更新は学校活動日の毎日(H30:186) 携帯メール配信システムによる学年・クラス通信を学校レベルへ拡充 <p>(3) 成果発表</p> <ul style="list-style-type: none"> 対外発信 学校ウェブサイト、地域情報サイト、動画投稿サイト、報道提供(H30:高大連携協定を締結している2大学のWeb Site掲載) 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 神戸新聞(8/21)、河内新聞(11/20)、サンケイリビング中学生新聞、他業界紙含め14件。() 大阪府ウェブサイトでの掲載は無かった。() 学校経営推進費事業である「プロジェクト教育(EVバイクの製作)」の実証実験を淡路島で行った際には、地元メディアに取材後すぐに掲載され、実験の実施中に紙面で周知された。() 説明用プレゼン資料を更新した() QRコードでのプロモーション活用を行った。() <p>(2) 学校ウェブサイトは細かな修正や更新で28回のアップデートを行った。()</p> <ul style="list-style-type: none"> ブログ投稿件数192件、トピックス投稿件数27件と、鮮度の高い情報発信で学校の魅力を伝えた。() 携帯メール配信システムは現状維持() <p>(3) 成果発表</p> <ul style="list-style-type: none"> 対外発信を、学校ウェブサイトや地域情報サイト等へ報道提供した。また、12/18に発表会を行い、評価していただいた。外部から5名参加あり。() (高大連携協定を締結している2大学のWeb Site掲載)

府立布施工科高等学校

<p>6 リスクマネジメント施策目標 (F)</p>	<p>(1)安全で安心な学び場づくりの推進 (2)働き方改革の推進 (3)能動的危機管理の強化</p>	<p>(1) 学校保健委員会と職員安全衛生委員会を活用し、保護者や学校三師とともに「安心・安全な学校づくり」のための意見交換を行う。 施設・設備の安全点検を全教職員で実施し、不備・破損箇所の改善や修理を速やかに行う。 地震・火災の発生に備えての防災訓練を実施するとともに、学校の諸活動を通して防災教育を推進する。</p> <p>(2)「ワークライフバランスを考慮した勤務」を標榜し、以下の取組みを進める。 ・業務プロセス標準化 ・システム化 ・会議の定刻終了 ・外部リソースの活用 ・Collaboration(協働)</p> <p>(3) 安全第一のもと、外部からの意見も参考に、安全対策の見直しと改善を行う。 ・危機対応マニュアルの見直しと徹底を行う ・生徒居住地域のハザードマップの配布による、在校時、登下校時、在宅時の各時間帯における緊急避難の具体的な方法について意識啓発。 ・大規模震災を想定した避難、救助、被災後対応および Business Continuity Plan を策定する。 ・Jアラートを含む緊急警報発令時に身を守る術について確認する。 ・ハインリッヒの法則に基づくヒヤリ・ハットの把握・記録・原因分析による未然防止を推進する。</p>	<p>(1) 学校保健委員会の実施回数：2回(H30:2回) ・職員安全衛生委員会の定例実施 ・安全点検の複数回実施：3回(H30:3回) ・防災訓練の実施：1回(H30:1回)</p> <p>(2)生産性向上/改善のアクション(10/年間) ・時間外80H+(1か月)の教員：月平均2未満(H30:1.1) ・職員会議の定刻終了：継続実施 ・スクールカウンセラー時間：50%増 ・スクールソーシャルワーカー：学校努力にて10H+(1年間) ・ストレスチェックの健康リスク指数：80未満の持続(H30:健康リスク79、基準値から20%以上良好...要因：同僚/上司の支援)</p> <p>(3) 外部からの意見聴取 ・危機対応マニュアルの指導徹底 ・校内研修1回以上 ・大規模震災対応マニュアル、BCPの作成と校内共有 ・全生徒、全教職員への配布/確認 ・重大事故/重大ヒューマンエラー(例：個人情報漏えい)：0件(H30:0件)</p>	<p>(1)学校保健委員会を2回実施() ・職員安全衛生委員会を2回実施() ・安全点検を3回実施() ・防災訓練については、昨年度を参考に、より現状に即した形・避難ルートの検討を行った。地震による火災想定の実感的な防災訓練を1回実施した()</p> <p>(2)「ワークライフバランスを考慮した勤務」 ・80H+教員の2か月連続：1名() ・職員会議の定刻終了() ・スクールカウンセラー時間：50%増() ・スクールソーシャルワーカーの来校は叶わなかった。() ・ストレスチェックの健康リスク指数：98となり昨年79を上回った()</p> <p>(3)昨年に比べ今年度は大きな地震・台風は無かったが、大規模自然災害における防災意識が高まる中、防災計画の見直しを行った。 ・危機対応マニュアルの職会での配布・指導() ・校内研修：1回() ・大規模震災対応マニュアル、BCPの作成および緊急時避難の具体的な方法について東大阪市と共有() ・緊急時に身を守る行動(Jアラート発令時を含む)について配布し共有() ・重大事故/重大ヒューマンエラーの発生：個人情報の紛失・ハラスメント()</p>
------------------------------------	---	---	---	--